

クロマツシンポジウムで活動報告

平成21年11月28日(土)酒田市の東北公益文科大学の公益ホールにおいて第5回クロマツシンポジウムが開催されました。

これはNPO法人「庄内海岸のクロマツ林をたたえる会」が先人の偉業を讃えるとともに、その意志を未来に引き継いで行こうと「出羽庄内公益の森づくりを考える会」などと連携して毎年開催しているもので今年で5回目となっています。

今年は、NPO法人「庄内海岸のクロマツ林をたたえる会」が活動を開始して10年を迎えることから「あれから10年。今、森づくりの歩みを振り返る。そして、クロマツ林第2章へ」をテーマに、酒田市民、森林ボランティア団体、林業関係団体、学校関係者、行政機関などから約100名以上の参加を得て開幕となりました。

砂山理事長の挨拶の後、カントリーフォークバンドのコンサートや「出羽庄内人形芝居」が登場しオープニングを盛り上げ、引き続き来賓の祝辞が行われました。

庄内森林管理署の植松署長も来賓祝辞の中で、歴史有る庄内海岸林の保全活動を通じて後世に誇れる仕事となる様に関係団体と一緒に頑張って努力したい。」と挨拶を行いました。

次に4団体から庄内海岸林での森林保全活動報告が行われ、当センターでも庄司自然再生指導官が「朝日庄内プロジェクトにおける庄内海岸林の保全活動」と題して発表しました。

「緑の回廊」の設定から当センターの業務内容をアニメーション効果を駆使したスライドで説明し、庄内海岸林では森林整備ボランティア活動支援 森林整備活動 森林環境教育 森林美化活動の内容を写真により報告しました。

特に酒田市の保育園と連携して実施している「就学前の幼児を対象とした森林環境教育」では、第5次山形県教育振興計画に則った専門的なプログラムに対して、参加者からも賞賛の声が多く寄せられています。

最後に、現在行われている朝日庄内プロジェクト改訂の説明と意見及び情報の公募への協力を依頼して報告を終了しました。

報告会終了後に、多くの参加者から「ふれあいセンターの業務内容や設立された経緯等が良く理解できた。」「少ない人数で良く頑張っている。」などの意見が相次ぎ、今回のシンポジウムで発表したことにより広報活動にも貢献できたものと考えています。

庄内日報 掲載記事

